

## ■『僕の古代史～我が国の真実を追う～』



- 著者：橋本正浩（当会会員） 一九四二年生まれ。慶応大工学部機械工学科卒、民間企業に勤務。
- 出版社：幻冬舎
- 発行日：2023年8月25日
- 税込み価格：1650円（B5判、193頁）
- 構成：五章（地方分権国家としての隆盛、中央集権国家を目指して、唐との戦いと敗戦、倭国から日本国へ、古事記・日本書紀創作の証拠）
- 筆者の主張：日本の歴史は、古事記によって改変されている。  
謎多き歴史書、古事記・日本書紀はなぜ生まれ、どのように成立したのか。  
当時の資料をもとに、十六年間独自に研究を続けてきた筆者が導き出す、衝撃の仮説がいま明らかになる。
- 内容：「みやけ」・任那・國造に関する諸考察が考究の出発点。

## ■「真実の『邪馬台国』を求めて」—万葉集の「伊知郷」から卑弥呼の墓標へ



- 著者：中村通敏（当会会員）1935年東京都世田谷区弦巻町出生。  
1945年春、父母の出生地熊本に疎開。熊本高校から九州大学工学部に進み、建設会社奥村組勤務。  
九州・四国・東京・米国・大阪・上海・香港などで建設工事に携わり、2000年専務取締役を退任後、古代史研究に入る。
- 出版社：海鳥社
- 発行日：2023年10月1日
- 定価：1700円＋税
- 第1章・「邪馬壹国」の名称から検証する  
第2章・「筑前国続風土記」「附録」「拾遺」にみえる筑前の古代  
第3章・近代の福岡平野に関わる研究  
第4章・卑弥呼の居城探し  
第5章・卑弥呼の墓を探そう 終章・今後に残る問題  
(本書の帯より)卑弥呼の居城と墓は難国（なかのくに）にあり 邪馬臺(台)国は邪馬壹(壹)国(ヤマ+イチ国)であり、万葉のころまでは那珂郡(現・福岡県那珂川市)に「伊知」という地名があった。  
さらに『筑前国続風土記』『拾遺』をひもとけば、『魏志』倭人伝に記された「卑弥呼の墓」に該当する遺跡がこの地に存在することを知る。文献・地名・遺跡調査報告書を丹念に調べあげ、辿り着いた答えとは。  
\* 著者より古田会に本書を頂きました。まだ在庫(15部程)あり。ご希望の方には着払いにて送ります。事務局までお知らせください。(編集)

## ■『開国』 立川市 中村忠夫



- 著者：讚井正光（編集、出版） 讚井優子（当会会員）
- 出版社：一粒書房
- 定価：非売品
- 発行日：2023年10月29日
- 【1】阿片戦争の衝撃
- 【2】十八世紀 東アジア・太平洋を巡って
- 【3】ペリーの日本遠征と日米和親条約
- 【4】ハリスと日米修好通商条約の締結
- 【5】安政の大獄と桜田門外の変
- 【6】全 116頁

## 【二十年来の宿題を終えて】 讚井優子 以下抜粋

夫、讚井正光が「開国」を書いたのは、<2001年夏>と本人が記しております。  
夫が地元の図書館に行き、借りた書籍の入った袋を下げてくる姿は日常の事です。  
その中には、開国関係の書籍も沢山あったと思います。  
黒船来航時の、対アメリカとの政治交渉には、大いに興味関心を抱いた事でしょう。  
当時は「開国」を書いていた事を私は知りませんでした。  
原稿の存在は、讚井正光没後に気づきました。未完成の原稿でした。  
すぐにも何らかの形で本にまとめたかったのですが、二十年以上経ってやっと「開国」と題された文章を補足し完成することができました。……………